

三原と瀬戸田の航路

町と街との交流は、どれ位容易にそしてどれ位の時間でその場所に行くことができるかにかかっています。現在の三原と瀬戸田を結ぶものは、しまなみ海道と高速船およびフェリーです。昨今の財政事情から瀬戸田・三原架橋は当面、現実が厳しくなっていることからこれからは既存のものをいかに有効に活用してゆくかが重要となります。そこで今回三原と瀬戸田の航路を持つ三原観光汽船 山本勝美社長に現況と課題についてお伺いしました。

Q. 三原と瀬戸田を結ぶ船便の現況について簡単に教えていただけませんか？

A. 現在、高速船については三社体制、フェリーについては一社体制で運行しています。しかし、しまなみ海道の利用率や今治航路の高速艇とは今後も目を離せない状況です。

Q. 運航ダイヤについてはどうでしょうか？

A. 高速船の通勤通学ラッシュの運航間隔が密になっていて利用者には不便をかけている状態です。また終便については高速船が20:35、フェリーが20:00です。

Q. 終便をもっと遅い時間にすることは可能でしょうか？

A. 採算ラインを超えればもちろん可能です。ただ、社員の勤務形態や乗客の利用状況を考慮しなければなりません。

Q. 経営基盤を磐石にするため優先株を発行する考えはありませんか？例えば、自治体にその優先株を引き受けてもらって、その代わり優待パスなどを発行してもらい、利用率を向上させ、なおかつ市民、町民の利便性も向上させるという考えです。今まで通り経営権も確保され、自治体も継続的な支出をすることなく、橋を造ったときの償還と比べものにならないくらい安価な投資で交通基盤の整備が実現できると思うわけです。採算ラインを明確にするためにもフェリーと高速船の分社化も視野に入るものかもしれませんか？

A. 経営判断は、スピードと継続性によるところが多いと思いますが、自治体に参加することで、それが機能しなくなることが憂慮されます。自治体には将来を見据えたビジョンが必要です。それらの点も同時に検討されなければなりません。



山本 勝美氏



来年には是非終便を22:00頃まで延長していただき、私たちも文化と芸術のある瀬戸田に向向いて行くようにしたいものです。橋でなくても密接な交流関係を築くことができるはずで、(社)三原青年会議所は、これからもより一層瀬戸田町との関係を深めてゆきたいと考えています。その架け橋として航路が大変重要になってきています。増便の検討をしていただきたいものです。

市民活動団体紹介

三原音楽療法研究会

会 長 吉岡 由美子
住 所 〒723-0016
三原市宮沖2丁目9番9号
電話 (0848) 62-7425

活動目的 本会は、音楽療法の研究を行い、その発展を図ると同時に、普及、会員相互の交流、その他音楽療法の発展のために必要な事業を行うことを目的とする。

一言PR

音楽療法と聞くととても難しく思われますが、音楽を通じておこなう心のコミュニケーションとお考えください。音楽を聴き、歌い、楽器を鳴らしリズムをとる事で体を刺激して、楽しく心豊かになることのお手伝いが出来れば幸いです。少しずつ活動の場も広がってまいりました。また12月7日には、公開講座「高齢者の音楽療法」を開催致します。ご興味のある方は、お問い合わせください。



「住民にとって暮らしやすいまち」「愛着の持てるまちを」を目指して様々な市民団体が活動しています。そこで、各団体の認知度アップや新たなネットワークのきっかけづくりを目的として、団体の活動内容をシリーズで連載いたします。ホームページでも、市民活動団体の紹介をしています。アドレスは http://www.tilde.co.jp/mjc_data2/top.htm です。是非、ご覧下さい。

森林ボランティア団体 フォレストサポートクラブ

会 長 向井 顕
住 所 〒723-0016
三原市宮沖2丁目8番17号
電話 090 8065-4751

活動目的 この会は、広島県森林インストラクター及び森林ボランティアが「沼田西町エヒメアヤマメ保存会」と協力しながら国の天然記念物に指定されている「沼田西のエヒメアヤマメ生南限地帯」の保全活動を行う。また、三原市教育委員会が行うエヒメアヤマメの調査にも協力する。あわせて「里山の保存」と「里山の保全活動」を通じて自然と親しむ活動を行う。

一言PR

みどりや“つくり”“守り”“育てる”活動団体としてひろしま緑づくりインフォメーションセンター(略してGIC)事務局(社)広島県みどり推進機構があり団体として加入しております。今までの活動として、ドラム缶を使っての竹炭づくり、ネイチャーゲーム、探鳥会、草木染め、秋のきのこ教室(鑑定会)、里山整備事業として森林整備、地球温暖化防止の森林づくりボランティア活動、植林のつどいを実施してきました。今後の活動計画はかざら編み、竹炭細工づくり、しいたけの栽培教室を予定しています。その他に緑づくりをする団体として「広島県緑の少年団」があります。緑の少年団は“緑と親しみ”“守り”“育てる”活動を通じて自然と人を愛し、自らの社会を愛する心豊かな人間に育っていくことを活動の基本目的にしています。



(社)三原青年会議所 新入会員募集

(社)三原青年会議所は、現在、三原市及び近隣町村の40歳までの青年約50名(内、女性会員2名)で組織されています。そして、次代を担う青年としての指導力の開発や、「明るい豊かな社会」を構築するための社会開発運動に積極的に取り組んでいます。是非、私たちと一緒に「明るい豊かなまちみはら」を目指して活動してみませんか。

入会資格

年齢25～35歳(原則として)
性別は問いません
三原市内及び近隣町村に在住、または勤務されている方

詳しくは(社)三原青年会議所事務局までお問い合わせください。

お問合せ先
〒723-0052 三原市皆実4丁目8番1号
三原商工会議所内(社)三原青年会議所
TEL 0848-63-3515/FAX 0848-62-1141

やっさもっさ 広告協賛のお願い

本紙「やっさもっさ」は、(社)三原青年会議所がまちづくり運動の一環として、本紙掲載企業の皆様からの広告協賛と、(社)三原青年会議所の自主財源によって発行しており、現在1月から年11回、三原市・久井町・瀬戸田町及び本郷町内の約32,000戸(平成14年現在)に新聞折込しております。私たちは来年度も本年度以上に、市民の皆様へ愛され親しまれる紙面づくりに邁進してまいります。何卒、三原市及び近郊の各企業の方々のご協力をお願い申し上げます。詳しくは下記の青年会議所事務局までお問い合わせください。

お問合せ先
〒723-0052 三原市皆実4丁目8番1号
三原商工会議所内
(社)三原青年会議所
TEL 0848-63-3515
FAX 0848-62-1141

編集後記

2002年の「やっさもっさ」もいよいよ最終号を迎えることとなりました。26年の輝かしい歴史と伝統のバトンをなんとか27番目の走者に繋げることができました。これもひとえに本紙の取材に快くご協力いただいた皆様、広告協賛企業の皆様、モニターの皆様、そして何よりも本紙読者の皆様のお陰と深く感謝いたします。

(社)三原青年会議所は、2000年に新ビジョン「コラボレーションシティ21」構想を発表し、市民、行政、企業の協働によるまちづくりを目指して活動しております。

本年度は「住民による合併を考える会」を運営し、住民・行政と共に合併後のまちづくりを議論してまいりました。また、地域が創る「学校共育環境」を目指し「PTCA運動」を実践した活動を展開いたしました。

その活動を報告し、共に考えていただく場が本紙「やっさもっさ」であると考えております。お蔭様で「やっさもっさ」も来年300号発行という記念の年を迎えます。今後とも本紙を通じて(社)三原青年会議所の活動に対し、ご理解ご協力をいただきと共に、時には厳しいご意見をいただければ幸いです。

2002年度(社)三原青年会議所

理事長 伊達 護 / 副理事長 佐藤恵美子
広報委員長 本田光一郎 / 副委員長 兼綱 猛晴
委員 上本 政夫・大成 政彦・桜井 靖光・住田 誠
田尾 敏範・松山 浩・村上 睦宏